

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 マタイによる福音書 9:37~38	讃 美 歌 502 いともかしこし
讃 美 歌 13 こころのよろこび	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 レビ記 19:18	主の祈り 564
コリントの信徒への手紙二 13:5	頌 栄 540 みめぐみあふるる
讃 美 歌 450 わかき日の道を	祝 禱
説 教『そうすると、なぜか力が湧く』	後 奏

「信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。あなたがたは自分自身のことが分からないのか。イエス・キリストがあなたがたの内におられることが。あなたがたが失格者なら別だが…(Ⅱコリント13:5)」。

信仰に関して「自分を反省し、吟味せよ」と言われても、具体的にいま一つ分からない。「信仰をもって生きているか」と問われても、それはどんな生き方なのだろうか。「失格者なら別だが…」とは、私たちが信仰失格者ならもう関係ない、相手にしないよ、ということか。じっくり腰を据えて聖句を噛みしめ、真剣に受け取ろうとすると、実際何をすればいいのか、ますます分からなくなって来る。

たとえ実感はなくとも「イエス・キリストがあなたがたの内におられる」。これが前提。信仰心で獲得したのではない。あの十字架によって、私たちにキリストが与えられた。ここが出発点で、キリストが内におられる「私」として反省・吟味する。だから自分で探し、自分で感じ、自分で決めるのだ。すなわち世の「クリスチャンパターン」に合わせるのではなく、教会の模範例に沿うのでもない。

自分で感じ、自分で決めるとどうなるだろう。なぜか内側から力が湧き、喜びというか、肯定感というか、そんな感じが起る。私たちの「内におられるイエス・キリスト(13:5)」を意識すると、自ずと力が湧き、嬉しくなって来る。気が乗らないとか、しかたないとかは、キリストのものではない。教会内の役割で気乗りしないことがあるならば、「自分を吟味し(13:5)」、拒否したらいい。健康な教会はそれを尊ぶ。キリストは抑圧しない。興味が持て、集中でき、力が湧くことを大事にしたい。

キリストが中心におられると、律法も違った調子に感じられる。「復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である(レビ 19:18)」。「わたしは主である」ように、キリストが中心におられる。するとどうだろう。「隣人を愛しなさい」は「愛さねばならぬ」ではなく、「愛してみたらどうかね」と聞こえる。愛は決して強制ではありえない。偶然でも、気まぐれでも、愛する方向に身を転じてみると、なぜか私たちの内側から力が湧いて来る。

イエスは、律法をいっそう強力にして語る。「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい(マタイ5:44)」。これもまた「せねばならぬ」ではなく、敵をも「愛してみてはどうか」だ。湧いてくるキリストの力で、敵を愛したなら、人と人との関係はまったく変わる。

「もし、あなたを憎む者のろばが荷物の下に倒れ伏しているのを見た場合、それを見捨てておいてはならない。必ず彼と共に助け起こさねばならない(出エジプト23:5)」。その結果どうなるかは語るまでもない。人と人との関係が新たに創造される。そしてそれ以上に、私自身が再創造されるだろう。

「イエス・キリストがあなたがたの内におられること(Ⅱコリント13:5)」が、私たち自身と、周囲に驚くべき変化をもたらす。私たちは、この胸に迎えた愛と創造のキリストを頼りにして、「自分を反省し吟味する(13:5)」。反省は苦痛だが、力が湧いて来る。吟味は迷ったとしても、清々しい聖霊の風を受けて喜びとなる。一人ひとりに、私自身に、与えられたキリストから出発する。いわば冒険と創造。

一人ひとりが自分を反省し吟味する キリストがこの胸におられる者として 器は一人ひとり違う
だから比較できまい 教会はバラバラであるほど健康体 唯一キリストの体として統一されている
来たる 11/2(日)は永眠者記念礼拝。そして同日礼拝直後に臨時総会を開きます(30 分程度)。
10/15(水)1:00~3:00 教会カフェ(1:30~2:00 聖書のおはなし)。牧師の動き:10/17 刑務所で研修会。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。